



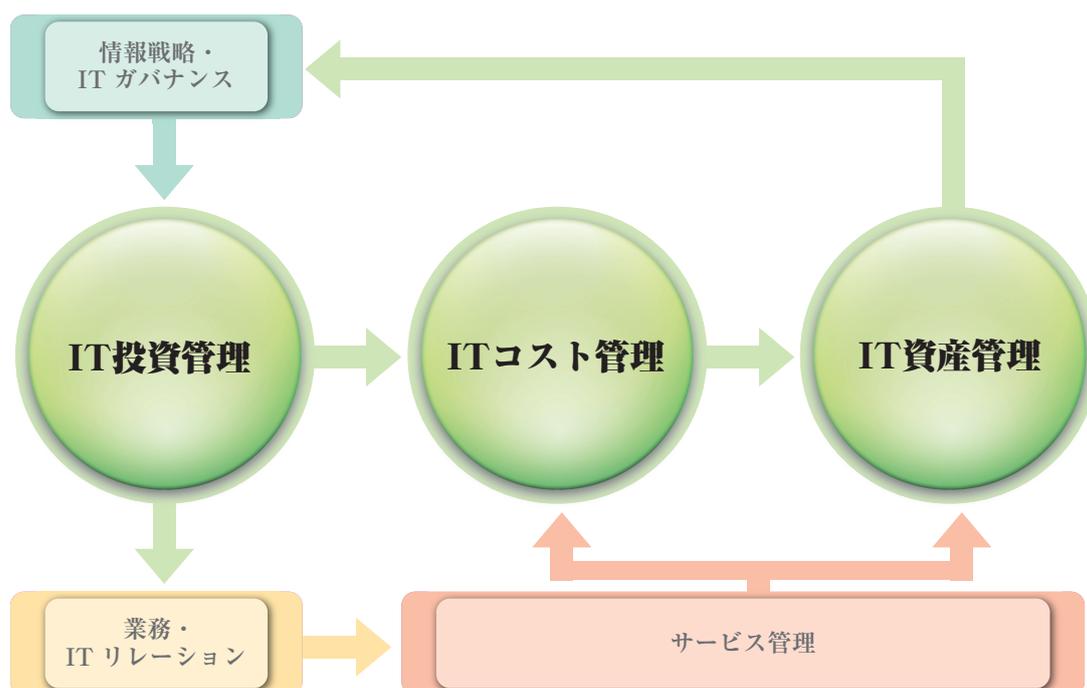
Value Management

IT投資管理・コスト管理

Value Managementでは、IT投資・ITコスト・IT資産の3つの視点から、情報化の価値を管理・統制する手法やノウハウを提供します。

これら手法・ノウハウを活用することで、付加価値の低いIT投資やIT資産を排除し、ITコストを適正化させることが可能となります。

Value Managementは、IT投資管理、ITコスト管理、IT資産管理の3つのメソドロジーから構成されています。



IT投資管理

本メソッドでは、情報戦略を踏まえた、IT投資の意思決定や管理に関わる方法論を提供します。具体的には、個別のIT投資案件の効果を多角的に評価するIT投資評価、及び全てのIT投資案件を一元的に把握し、IT投資の配分や優先度の見直しを図るIT投資ポートフォリオ管理の手法を提供します。IT投資を適切にコントロールすることで、IT投資の効果を最大化することが可能となります。

利点・期待効果

- 情報戦略に基づき、情報化の重点領域に優先的にIT投資を配分することができます。
- 不要・不急な案件や、投資効果が曖昧な案件を中止するなど、IT投資の妥当性・納得性を向上させることができます。
- IT投資の必要性や効果を、意思決定者に分かりやすく説明することができます。

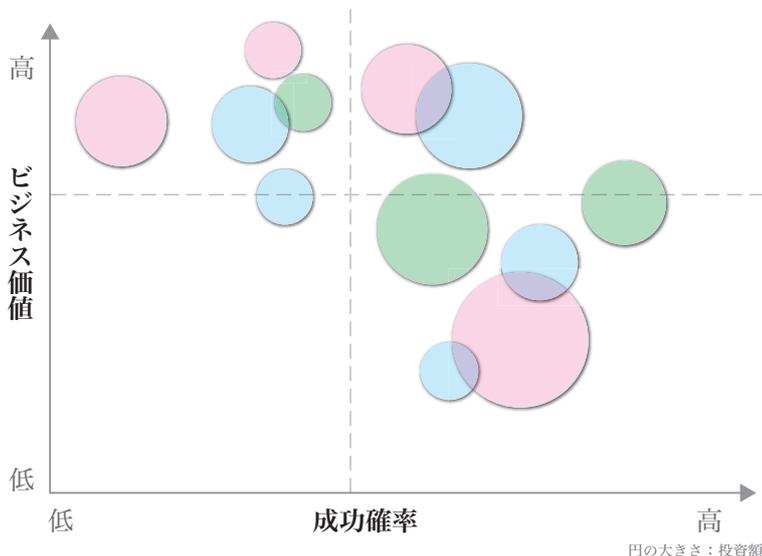
(活用する代表的な手法)

個別IT投資案件の評価

IT投資のタイプに応じた適切な投資効果指標を設定し、IT投資の妥当性・実現性を評価する手法



投資タイプ	概要	特徴	投資リスク	評価方法
業務効率化	トランザクション処理、自動化	コスト低減、生産性向上に直結	低	効果を金額換算し、ROIや回収期間法等の経済性評価指標で評価
情報活用、戦略的	ビジネスを支援するための情報の提供、ビジネスの創出	成功すれば売上増大・競争優位につながるが、目覚ましい効果を上げられるのはごく一部	高	定性的な目標をKPIに置き換え、各KPIに数値目標を設定各KPIの実績値を定期的にモニタリングして効果を把握
基盤関連	業務の基礎、IT機能の共有化・標準化の基礎	必須の場合が多い、技術動向の将来見通しを立てるのが難しい	中	費用対売上高、費用/人月等の目標値を設定して実績を評価



IT投資ポートフォリオ管理

全てのIT投資案件を一元的に把握し、IT予算の配分やIT投資の実施状況を可視的に管理する手法

ITコスト管理

本メソッドでは、全社のITコストを正確に把握し、様々な視点から多角的に分析する手法を提供します。具体的には、システム別・目的別・利用部門別といった視点でのITコストの分類方法や、原単位当たりでのITコストの分析方法を提供します。多角的なITコストの分析に基づき、ITコストの適正化に向けた改善ポイントやコスト削減施策を立案することが可能となります。また、これらITコスト分析を通じて、事業部門やグループ会社に対し、受益者負担の原則に基づく、適切なITコスト課金を行うことが可能となります。

利点・期待効果

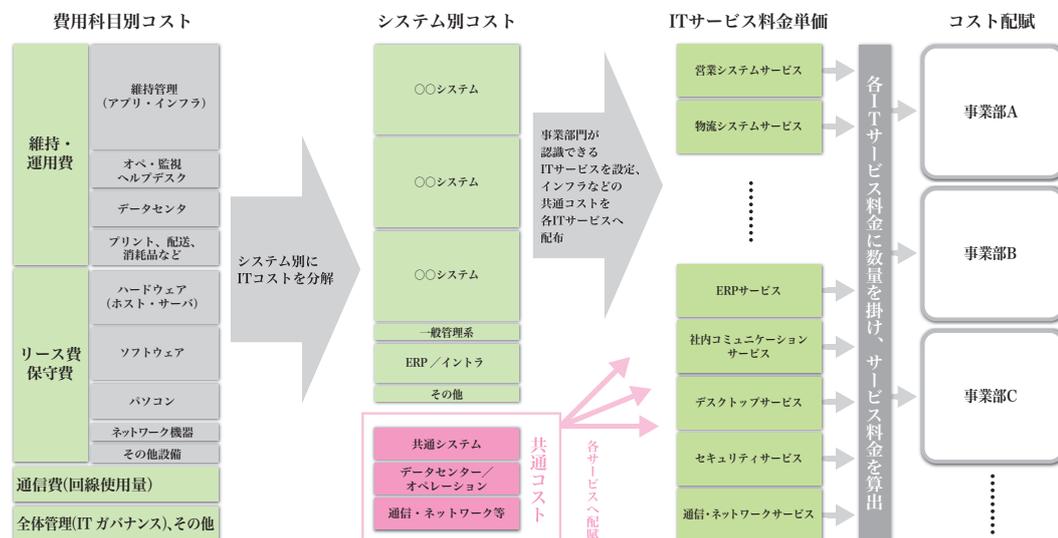
- ITコストを正確、且つ継続的に把握することができ、ステークホルダーへの説明責任を向上させることができます。
- 経年推移や他社とのベンチマークを通じて、常にITコストの妥当性を検証することが可能となり、ITコスト適正化に向けた活動を促進することができます。
- 事業部門やグループ会社におけるITコストへの意識を高めることができます。

(活用する代表的な手法)

ITコスト分類とコスト分析の視点

システム別、目的別、勘定科目別、利用部門別など、多角的な視点からITコストを管理・分析する手法 (NRIのベンチマークデータを用いることも可能)

コスト分類		コスト高の要因	コスト削減施策(例)
維持・運用費	維持管理 (アプリ・インフラ)	システムの肥大化・複雑化 (過去●年で●倍) による、アプリ維持効率の低下 ハード・ウェアの乱立 (台数・種類) による、インフラ維持効率の低下 ソフトウェアの再利用に対する意識不足 (スピード重視で部品化等の遅れ) 障害・問合せ多発 (●件/月) による、維持管理要員の長期固定化 ユーザー部門とのサービスレベル合意 (SLA) 無きままに、全ての案件に特急対応 (リソース平準化が進まず、ピーク対応可能な要員を固定化)	ユーザー部門への牽制力強化 IT 企画人材の育成 維持条件コントロールによるリソース平準化
	オペ・監視ヘルプデスク	システム毎に最適化された運用方式・管理ツールの乱立 (運用考慮の不足) 運用自動化への対応遅れ	不良システムの除去 ITコストコントロールの強化
	データセンタ	機器台数・ラックの増加に伴う借借スペースの拡大 過剰なデータセンター設備	サービスレベルの適正化 インフラ・運用の標準化 ホストマイクレーション
	プリント、配送、消耗品など	使途不明、又は不要な帳票の出力・配送、及び電子化への対応の遅れ 消耗品の未管理 (全て事後対応)	オープンソースなど安価な製品・サービス活用促進 プロジェクト管理・品質管理力の強化 業務プロセスの自動化・自動化 障害・問合せ、臨時作業の削減 保守契約の適正化
リース費 保守費	ハードウェア (ホスト・サーバ)	割高なホストコンピュータの継続使用、統合サーバ環境整備の遅れ 統合サーバ環境の遵守徹底不足による例外の多発 過剰なハードウェア仕様・保守契約、及び調達時の交渉不足	
	ソフトウェア	過剰スペック (高機能・高価格) のソフトウェアの選択 オープンソース活用への取組みの遅れ 過剰なソフトウェア保守契約、及び調達時の交渉不足	
	パソコン	PC 管理における自動化の遅れ (ソフトウェア配布、インベントリ取集など) 不明 PC・未使用 PC の増加、増設・撤去に伴うリース解約の遅れ	
	ネットワーク機器	過剰な仕様・保守契約、及び調達時の交渉不足	
	その他設備	過剰な仕様・保守契約、及び調達時の交渉不足	
通信費(回線使用量)		過剰な回線容量、単価の高い旧サービスの継続利用 過剰な仕様・保守契約、及び調達時の交渉不足	
全体管理(IT ガバナンス)、その他		プロセス未整備による非効率な運営 情報散在・未取得などによる、社内資料の作業効率低下	



ITコスト課金

受益者負担の原則に基づいてITコストを分解し、利用量やユーザ数などに応じて、適切なITコストを各ユーザー部門に課金する手法

IT資産管理

本メソッドでは、情報システムの資産評価の一つの手法として、情報システムのライフステージを評価する手法を提供します。具体的には、事業貢献度や技術老朽化度等の軸を用いて情報システムを評価し、資産の健全性を評価する手法を提供します。情報システムのライフステージを正確に把握することで、情報システムの再構築や廃棄の要否や、今後のIT投資方針を明確にすることが可能となります。

※ 本IT資産管理は、財務的な資産価値評価ではありません

利点・期待効果

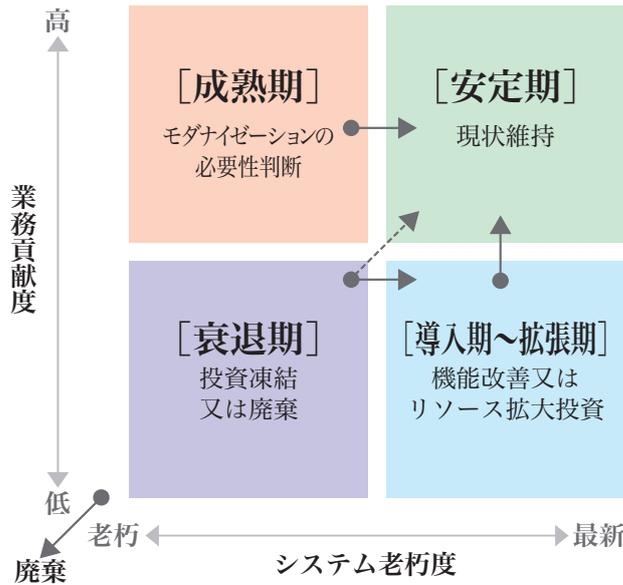
- 現有の情報システム資産の健全性を可視化することができます。
- 事業貢献度が低い不良資産を特定し、情報システム資産の健全性を維持することができます。
- 効率性の低下した老朽資産を特定し、情報システムのモダナイゼーションの必要性を判断することが可能となります。

(モダナイゼーション：システム基盤・アプリケーションの最適化・近代化を行う手法)

(活用する代表的な手法)

ITライフステージ評価

情報システムのライフステージを、事業貢献度と技術老朽化度の2軸を用いて評価し、情報システムの再構築や廃棄の要否、今後のIT投資方針を決定する手法



評価軸		パラメータ (例)
システム老朽度	システム老朽度 古ぼけていないか?	利用している技術・製品の状況 残存償却額 初期整備後経過年数
	運用コスト お金のかかり方はどうか?	年間総ランニングコスト 今年度コスト/前年度コスト
	運用負荷 業務への負荷はどうか?	システム複雑度 (システム複雑度分析により) 障害発生度 (問い合わせ件数、改修件数、など) 改修効率 (例: 1改修案件あたり工数・期間推移)
業務貢献度	業務に対する貢献度 役に立っているか?	期待効果 (人員削減、生産性向上、売上上昇などの KPI) の達成状況 今後の環境変化への柔軟な対応 ユーザ満足度
	利用状況 使われているか?	システム利用者の推移 利用時間、アクセス件数の推移
	機能充足度 追加開発の状況は?	追加開発・メンテ件数 [少] 累積追加投資額 [少] 改修効率 (例: 1改修案件あたり工数・期間推移) [少]